

有限会社明豊エコ・テクノ

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 : 2023 年2月1日～ 2024 年1月31日)



発行日 : 2024年2月15日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
産業廃棄物処理フォロー	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11

□ごあいさつ

地域に根差す廃棄物処理業として、廃棄物を適正処理し、資源として有効活用するための機能を果たします。
地域特性に併せ、木製廃棄物は畜産資源として再生活用を図ります。
社会環境の変化に併せ、取り扱い対象と有効活用に目配りを忘れず取り組みます。
当社は環境経営方針を定め、方針に基づく活動の実行を誓約します。



環境経営方針

<環境経営理念>

そのままでは厄介なごみである「廃棄物」を地域に役立つ資源として活用できるように適正処理します。

廃棄物リサイクルを通じ

地域への貢献→資源の有効活用で環境健全化と地域企業の繁栄に貢献

従業員の幸福→適正な利益を確保し、経済基盤を確保、生計基盤の安定を目指します。

環境経営の継続的改善を誓約します。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄物の削減・リサイクルに努めます。
4. 畜産敷料の安定供給に努めます。
5. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。
6. 組織内外へのコミュニケーションツールとして環境経営レポートを作成し公表します。

*当社は水、化学物質は使用しておりません。

制定日： 2020年1月31日

代表取締役 **外戸口 孝一**

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
有限会社明豊エコ・テクノ
代表取締役 外戸 孝一
- (2) 所在地
本社 鹿児島県出水市上鯖淵2375-3
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 中間処分場責任者 竹次大輔 TEL : 0996-62-5960
担当者 経理 竹次 りえみ
- (4) 事業内容
産業廃棄物中間処理業
一般廃棄物中間処理業
木質廃棄物を粉碎・選別して畜産敷料に再生・販売
- (5) 事業の規模
法人設立年月日：2001年2月26日
資本金：25 百万円
売上高：32 百万円（2023年度）
従業員：3 名
- (6) 事業年度 当年2月1日～翌年1月31日
- (7) 事業許可の内容
1. 産業廃棄物処分業（中間処理 破碎） 許可番号04624076988号（鹿児島県）
・許可年月日：令和4年10月9日 許可の有効期限：令和9年10月8日
・事業の範囲：木くず
2. 一般廃棄物処理業（処分） 許可番号第22204221号（出水市）
・許可年月日：令和4年5月19日 許可の有効期限：令和6年5月18日
・事業の範囲：剪定木 剪定枝 草 等
3. 産業廃棄物収集運搬業 許可番号04603076988号（鹿児島県）
・許可年月日：令和3年10月1日 許可の有効期限：令和8年9月30日
・事業の範囲：廃プラスチック類、ゴムくず、ガラス・コンクリート及び陶器くず、がれき類、紙くず、木くず 以上7種類（積替え又は保管を除く。）
4. 一般廃棄物処理業（収集・運搬） 許可番号12204221号（出水市）
・許可年月日：令和4年5月10日 許可の有効期限：令和6年5月9日
・事業の範囲：事業所の一般廃棄物及び市が収集しない家庭ごみ（し尿を除く）
- (8) 施設等の状況
敷地面積 1898 m² (575 坪)
設備
1. 計量設備 クボタ30 t スケール
2. 破碎機 諸岡MC-2500T
3. チップ製造 ハンマークラッシャー
4. 移動式クレーン 日立建機ZAXIS110
5. ショベルローダー 日立建機LX40
- (9) 収集・運搬車
日野 4 t ダンプカー（敷料配達兼用）
- 10) 年間処理実績（2023年度：2023年2月～2024年1月）
一般廃棄物（剪定屑等）処理量 635 t 産業廃棄物（解体木屑等）処理量 1,169 t 合計1,804 t
一般・産業廃棄物収集運搬実績 無し

□産業廃棄物処理フロー

処理能力 12.48 t / 日

処理方式 破碎

①



搬入・計量

⑤



チップ置場

②



荷下ろし

⑥



③



一次破碎

⑦



積込

④



二次破碎

⑧



出荷・配達

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 有限会社明豊エコ・テクノ

対象事業所： 本 社

対象外： なし

活動： 産業廃棄物中間処理業
一般廃棄物中間処理業

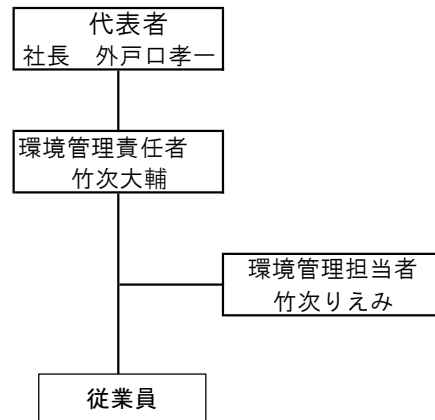
□事業や製品

主な事業の紹介
・木質廃棄物のリサイクル

製品の紹介
・畜産敷料

サービスの紹介
・木質廃棄物中間処理
・畜産敷料製造

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境管理担当者	・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・環境経営実績の確認・評価
従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	65,822	61,880	73,775	63,795
電力使用量	kg-CO ₂	22,442	20,229	20,620	19,454
燃料使用量	kg-CO ₂	43,380	41,651	53,155	63,556
一般廃棄物排出量	t	69	53	60	67
産業廃棄物排出量	kg	8	7	7	6
総排水量	m ³	0	0	0	0

※電力の二酸化炭素排出係数九州電力の2018年度調整後排出係数0.347kg-CO₂/kWh

□環境経営目標及びその実績

年 度 項 目		2019年度	2023年度		評価	2024年度	2025年度
		実 績	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	22,442	21,768	11,631	○	21,544	21,319
	kWh	64,673	62,733	33,520		62,086	61,439
	基準年度比		-3%	-48%		-4%	-5%
燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	63,556	61,649	52,164	○	61,014	60,378
	軽油 ℓ	24,258	23,530	19,910		23,288	23,045
	基準年度比		-3%	-18%		-4%	-5%
※注3							
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	65,822	83,418	63,795	○	82,558	81,698
	基準年度比		-3%	-3%		-4%	-5%
一般廃棄物の削減	kg	69	67	63	○	66	66
	基準年度比		-3%	-9%		-4%	-5%
産業廃棄物の削減	t	8	8	6	○	8	8
	基準年度比		-3%	-25%		-4%	-5%
環境に配慮した生産活動 顧客クレーム ※注1	稼働生産アップ	100%	105%	110%	○	110%	115%
	基準年度比		+5%	+10%	○	+10%	+15%
	クレーム件数	0件	0件	0件	○	0件	0件
課題を解決し、チャンスを活かす取組 ※注2	出荷積込数	200	204	203	×	206	208
	杯		+2%	2%		+3%	+4%

※電力の二酸化炭素排出係数九州電力の2018年度調整後排出係数0.347kg-CO₂/kWh

注1 環境に配慮した生産活動：①敷料最適サイズの追求、②稼働率向上、③顧客クレーム削減

注2 課題を解決し、チャンスを活かす取組：敷料出荷積込回数アップ（暫定基準敷料車両積込回数）

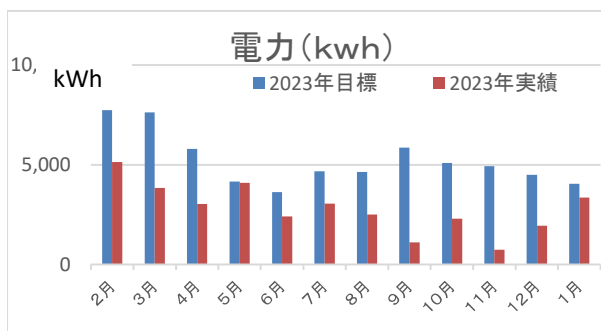
注3 燃料は、2021年12月設備入れ替えにより、2022年度実績を基準に変更した

□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	目標達成
・始業・終業時のブレーカーオフ	○	処理施設の効率的稼働や稼働時間の短縮化
・こまめな電源オン・オフ	○	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	○	



取組紹介欄

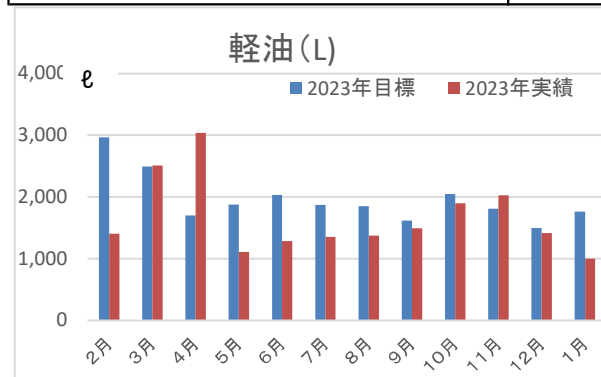
次年度の取組内容

引続き省エネ稼働と効率稼働運転を目指す。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2023年目標	7,746	7,621	5,809	4,154	3,645	4,676	4,649	5,862	5,097	4,926	4,508	4,039
2023年実績	5,135	3,837	3,028	4,100	2,417	3,049	2,513	1,112	2,290	735	1,946	3,358

単位：kWh

燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	目標達成
・こまめなエンジンオフ	○	配達の減少により、4 t ダンプの燃料使用量の減少
・効率的なルートで配送	○	



取組紹介欄

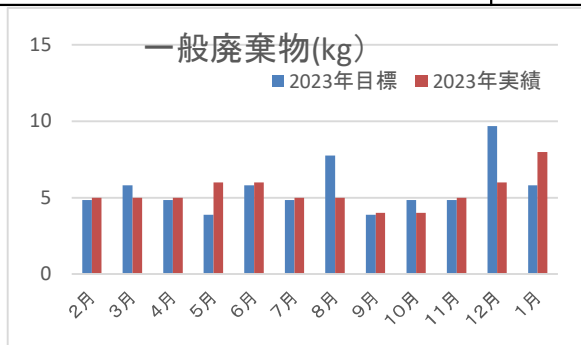
次年度の取組内容

改善により機械稼働率が上がっているが、更なる省エネや効率運転を目指す。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2023年目標	2,969	2,493	1,698	1,878	2,034	1,872	1,852	1,619	2,047	1,811	1,496	1,762
2023年実績	1,402	2,512	3,037	1,110	1,286	1,351	1,378	1,494	1,898	2,028	1,413	1,001

単位：リットル

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	目標達成
・ 分別の徹底、計測	○	分別の徹底で、僅かではあるが削減できた。
・ シュレッダー廃紙のリサイクル化	△	
・ 裏用紙の利用	○	



取組紹介欄

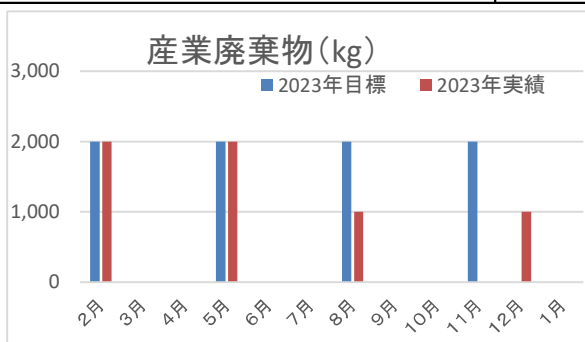
次年度の取組内容

分別・計量によって、種類別の減量対策を考えたい。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2023年目標	5	6	5	4	6	5	8	4	5	5	10	6
2023年実績	5	5	5	6	6	5	5	4	4	5	6	8

単位：kg

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	目標達成
・ 産業廃棄物の分別、計測	○	金属類が多く、有価物としての処理が多く、発生量は少ない。



次年度の取組内容

分別を徹底し、資源化での処理を目指す。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
2023年目標	2,000	0	0	2,000	0	0	2,000	0	0	2,000	0	0
2023年実績	2,000	0	0	2,000	0	0	1,000	0	0	0	1,000	0

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価
数値目標		目標達成
・ 敷料最適サイズの追求	調査	顧客からのクレームは無かった。数量の出荷積込数も基準年度に比べ5%アップし、売り上げに貢献した。
・ 顧客クレーム削減	○	
・ 出荷回数の増加	○	
		次年度も引き続き、クレームゼロ、出荷積込数増を目指す。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物
家電リサイクル法	冷蔵庫、洗濯機、家庭用エアコン
資源有効利用促進法	パソコン
自動車リサイクル法	自動車
騒音・振動規制法	空気圧縮機、送風機
消防法	消火器

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されています。

なお、違反、訴訟等も過去4年間ありません。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023/4/20	■実施場所 中間処理場
■参加者： 竹次大輔、竹次りえみ	■実施内容： ・通報訓練、消火訓練、避難訓練
■評価： 定置式破砕機の消火訓練をした結果、手順書の変更する必要はなかった。	手順書の変更の必要 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子 ・出火場所の確認 ・消防への連絡手順確認 ・消火時の手順確認 ・消火器の保管場所、中身の確認 	

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 油類流出の発生	
■実施日： 2023/4/20	■実施場所 中間処理場
■参加者： 竹次大輔、竹次りえみ	■実施内容： ・吸油マット、砂袋の利用方法等
■評価： 定置式破砕機の油流出訓練をした結果、手順書の変更する必要はなかった。	手順書の変更の必要 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子 ・油流出箇所の確認 ・油流出による火災防止の手順確認 ・油処理後の処理方法確認 	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2024年2月13日

【前回の指示への取組結果】 2021年12月の一次破碎機の入替を行い、2022年度の燃料使用量の実績が確認できたので、2023年度の燃料使用量を実績値の－3％に修正して活動した。その結果、目標は達成出来た。その他の目標についても達成できた。		
＜情 報＞		＜見直し・指示＞
◇自社を取り巻く環境問題の変化 （社会的情勢、利害関係者の要求等） 顧客からの継続的な需要により、安定した敷料の出荷ができています。二次処理については、一部他社に処理を委託した。		◇環境方針の改訂 環境経営方針は2024年度も継続する。
◇環境経営目標・計画の達成状況 全ての目標項目において達成できた。		◇環境経営目標・環境経営計画 引き続き省エネ活動や効率運転を継続していく
◇その他 ・ 利害関係者からの苦情・要請等 ・ 環境上の問題点等 ・ 環境関連法規の順守状況 ・ 緊急事態訓練の実施状況		苦情や行政からの指導などなし 環境経営システム上の問題なし 法規は順守できている
【総括（評価と今後の環境経営について）】 電気と軽油については出荷量を原単位として目標設定するつもりであったが、コロナ禍もあり、当面絶対量で管理する。 水は基本的に使っていない。 一般及び産業廃棄物について少ないが今後も実績データを収集する（有価物として処理ケースが多い）。 化学物質は使用していない。今後、エコアクション21の着実な運用を行い、環境経営に取り組む。		

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり